

2024年2月5日

2024年3月期第3四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

ハイライト

2024年3月期 第3四半期連結決算

売上高

- ✓ **488億円、前同比3.3%増加**
医療用医薬品事業が堅調に推移し、過去最高の売上高を更新。

売上原価

- ✓ **251億円、売上原価率 前同比1.1ポイント改善**
先発医薬品等の伸長による製品ミックス改善などが寄与。

販売費及び 一般管理費

- ✓ **181億円、売上高販管費率 前同比0.4ポイント上昇**
経済活動の正常化に伴う事業活動費用の増加が影響。

営業利益

- ✓ **55億円、前同比9.6%増加**
販管費、研究開発費の増加はあったものの、売上高、売上総利益の増加により増益。

2024年3月期 通期連結

業績予想

- ✓ **売上高 620億円、前同比2.5%増加**
- ✓ **営業利益 54億円、前同比5.7%増加**

損益計算書（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	47,259	48,824	1,564	3.3%
営業利益	5,041	5,526	484	9.6%
経常利益	5,246	5,631	384	7.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,183	6,458	2,275	54.4%

増加要因

- ✓ 原材料価格やエネルギー価格の高止まりや円安を背景とした物価上昇など、経済動向は依然として不透明な情勢のまま推移していますが、このような状況下においても、当社グループの事業は前年度に引き続き、堅調に推移しています。当期純利益の増加は、第2四半期に計上した投資有価証券売却益（特別利益）によるものです。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	41,916	43,603	89.3%	1,686	4.0%
アニマルヘルス事業	5,187	5,096	10.4%	△90	△1.7%
その他事業	155	124	0.3%	△31	△19.9%
合計	47,259	48,824	100.0%	1,564	3.3%

増減要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、毎年の薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。「レルミナ」が順調に伸長したほか、2022年6月から販売を開始した「ドロエチ」が前年に続き大きく増加し、「チラーヂン」「リフキシマ」も着実に伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業は、原材料等のコスト上昇による影響を受けたものの、畜産用薬品や飼料添加物を中心に売上高は前年並みを維持しました。

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期		2024年3月期		ご参考 期初計画	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)		
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	8,464	7,558	△10.7%	9,497	△11.4%	9,268	薬価はダウンしたが数量ベースを維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	6,031	6,104	1.2%	7,720	△0.2%	7,833	想定通りの進捗
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	4,230	4,572	8.1%	5,762	6.8%	5,578	ガイドライン浸透とともに堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	1,163	1,180	1.4%	1,489	0.2%	1,513	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	710	655	△7.7%	821	△8.8%	844	想定通りの進捗
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	6,995	7,873	12.6%	10,234	15.8%	10,128	子宮内膜症での浸透活動を継続
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	2,538	4,604	81.4%	6,096	66.0%	4,165	想定以上の大幅な進捗
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	2,718	2,556	△5.9%	3,253	△6.8%	3,407	薬価はダウンしたが数量は増加
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	918	1,505	63.9%	2,050	63.8%	1,363	外部要因等により伸長
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	626	562	△10.3%	691	△11.9%	799	他社品への流出による減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	484	562	16.2%	715	14.1%	750	薬価上昇分が数値に反映
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	3,930	3,476	△11.5%	4,381	△12.4%	4,828	期初想定より他剤への切り替えが継続

※1 配合剤を含む

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2023年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期		2024年3月期計画		ご参考
	実績	実績	増減率(%)	見込	増減率(%)	期初計画
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	3,258	3,014	△7.5	3,848	△7.3%	3,832
動物用医薬品 (畜水産+CA※)	1,832	1,957	6.8	2,515	6.1%	2,490

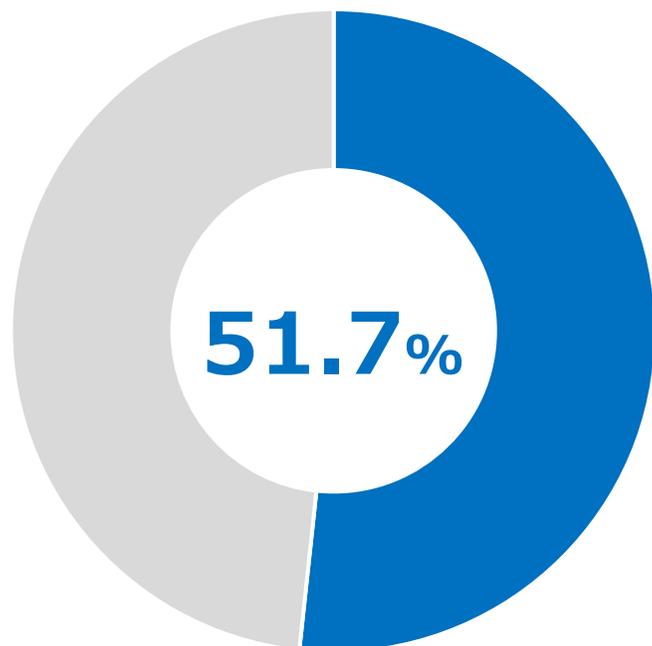
増減要因

- ✓ 飼料添加物の市況は下げ止まりの傾向がみられるものの、依然として不透明な状況が継続しています。
- ✓ 動物用医薬品は昨年発売したトリロスタン錠「あすか」およびホルモン剤を中心に堅調に推移しました。

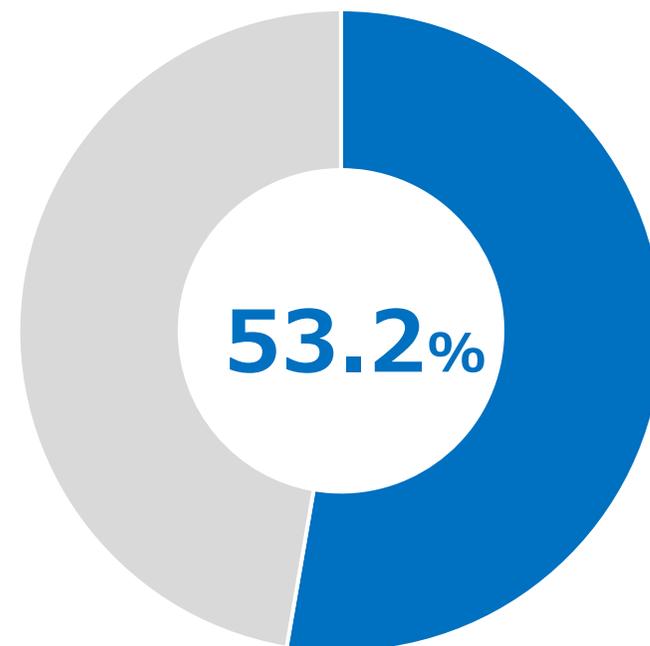
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2023年3月期 第3四半期



2024年3月期 第3四半期

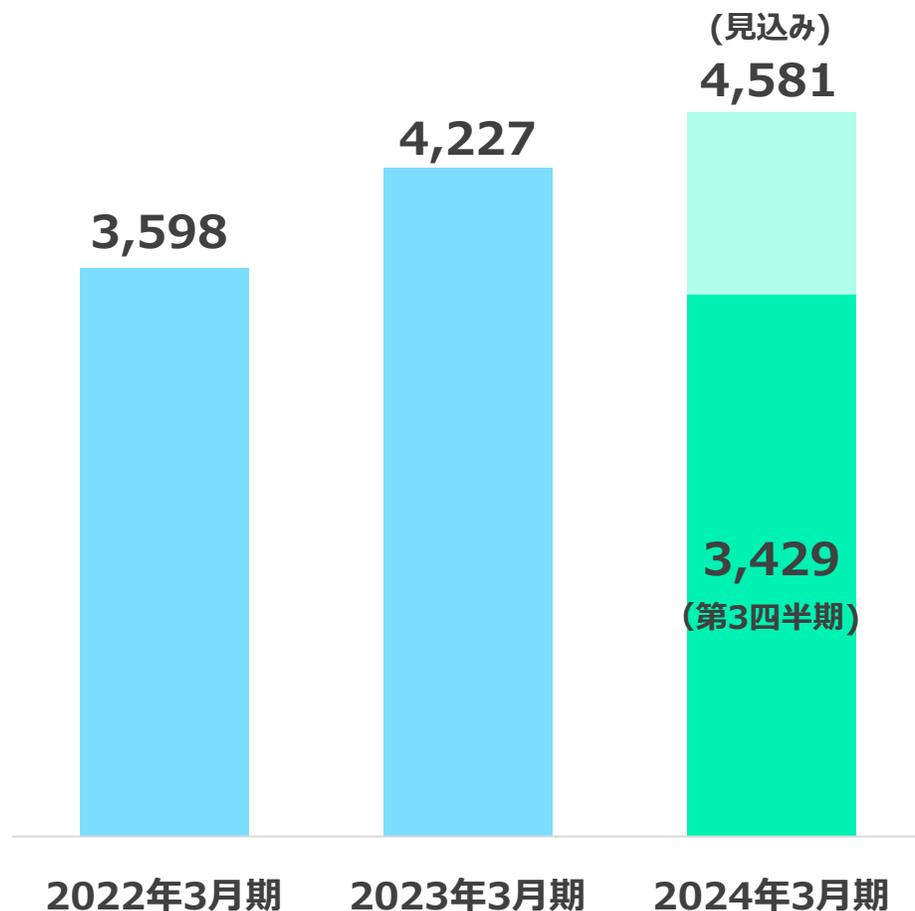


後発医薬品であるドロエチ配合錠の大幅な伸長があったものの、レルミナ、リフキシマ、チラーチン等の先発品群の伸長により先発品比率は1.5ポイント上昇しました。

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2024年2月5日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	Ph III
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph I / II
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III *1
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	申請済み
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II *2
AKP-017 (テストステロン経鼻剤) 泌尿器科領域	開発準備中

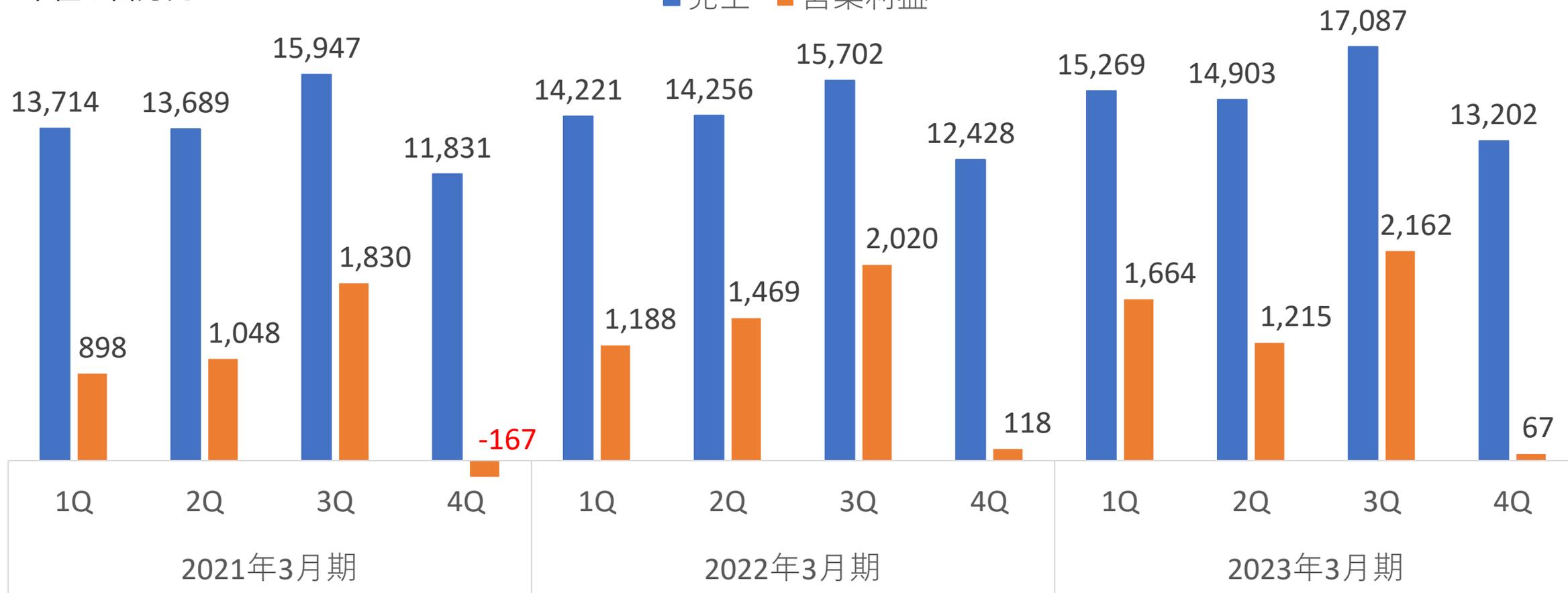
*1 産婦人科領域を対象とした臨床試験を開始しました (2023年11月)

*2 再度Phase I 試験を実施中

期毎の売上、営業利益（過去実績）

単位：百万円

■ 売上 ■ 営業利益



4Qは薬価改定前の買い控えや費用の発生等により売上・利益ともに低い傾向にあります